

選に当たる。そのため、現有議席確保でさえかなり厳しい状況だ。さらに、コメ開放問題などもあり、参議院選挙まで自民党が追い風で行けるかどうか、難しい状況だ。

自民党が議席数を減らすとなれば、本格的な連立内閣が誕生することも考えられる。さらには、こうした連立構想が、政界再編という一層大きな流れにつながる可能性がある。自民党だけでなく野党もそれぞれ問題を抱えており、日本の政党政治はきわめて不安定な状況だ。

現在の政党政治のままではいけない、という危機感が与野党を問わず政治家の中に広がっている。こうした現状打破的なグループが、まずまず台頭することも考えられる。こうした連立、さらには政界再編

という動きは、現在中途半端な形になっている選挙制度改革にも影響してくる。また、世代交代論にも一層拍車がかかることも考えられ、「宮沢後」を早くも議論の俎上に上せるこ

とになる。選挙結果にもよるが、参院選後は、ポスト宮沢をめぐるさまざまな動きが出てくるわけで、宮沢政権の前途は容易ではない。(談)

中国・台湾関係に劇的展開はあるか

双方とも事情抱えるが、交流は活発化

東京外国語大学教授 中嶋嶺雄

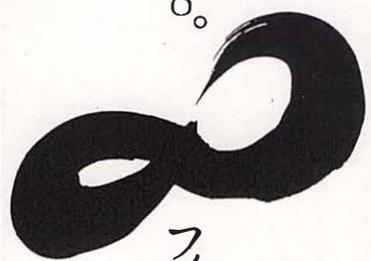
中台関係は、89年6月の「天安門事件」以降、むしろ進展してきた。西側が対中制裁を続ける中、めざましい経済成長という「台湾経験」に自信を深める台湾からは、延べ三万人が中国大陸を訪問している。表向きの政治対立はあるものの、経済的・人的な民衆交流はいつそう活発になつており、92年もそれはさらに拡

大していくだろう。台湾は、91年5月1日に中国大陸を敵視する敵国条項を取り下げた。それは、台湾が兩岸の政治的な緊張緩和に大きく踏み出したことを意味する。一方、中国側も中台間の交流は積極的に推し進めようとしている。中国側の土儀において、鄧小平氏などの革命第一世代が健在のう

に、悲願の台湾統一を成し遂げるには、残された時間は日に日に少なくなっているからだ。台湾の対中国敵国条項取り下げを歓迎するのみならず、国共首脳による会談の誘いかけまで持ちかけているくらいだ。

今後の中台関係をみていくうえで、まず中台双方の政治的な安定度を計ると、中国のほうがより深刻なのは間違いない。ソ連、東欧の社会主義体制が崩壊する中で、中国共産党は一党独裁を続けていかなければならない。しかも、その指導者たる鄧小平氏は八七歳を超える高齢だ。その意味で、中国は歴史的な転換への契機がいつあってもおかしくない。折しも92年は、中国共産党の第一四回大会が想定されている。ここでは、これまでの改革・開放政策

はじまりは原子番号8。



フィールドは無限大∞。

原子番号8(酸素)の製造からはじまった日本酸素の技術。現在は酸素、窒素などの工業ガスやプラントを通し、さまざまな産業に貢献しています。たとえば未来技術分野で、リニアモーターカー、液体燃料ロケット、海洋開発など、最先端の事業に参画。そして生活関連分野では、冷凍食品等の総合食料品、ステンレス魔法ビン、酸素缶“O₂CAN”などの開発・製造を展開。まさにキッチンから宇宙まで、あらゆる可能性を限りなくふくらませています。

日本酸素

東京都港区西新橋1-16-7 7 105
TEL(03)3581-8402



なかじま みねお氏

や、天安門以降の総括がなされるだろう。鄧小平氏が健在ならば、現状維持は可能だろう。だが、鄧氏ら革命第一世代の交代の時期は確実に迫っている。政治局の中から、第二、第三の胡耀邦、趙紫陽が出る可能性は否定できないし、趙紫陽復活の可能性も残されている。中国の「エリツイン」や「ゴルバチョフ」が出現

するかもしれない。他方、台湾は住民の意思に従った国家の再編という課題を抱えている。高度な政治意識に目覚めた台湾住民が、自己のアイデンティティを新しく確立しようとしているのだ。政権党の国民党も含めて、自分たちは大陸の中国人とは違う「台湾人」という意識を強めている。形

勢は「台湾独立」に追い風だ。野党第一党の民進党も、党綱領の中に「台湾独立」という条項を入れた。だが、いま仮に住民投票をすれば、台湾の即時独立を支持するものはおそらく二割前後にすぎないだろう。あえて「独立」という火遊びで、これまで獲得してきた政治・経済における「台湾経験」を失う危険は冒したくないからだ。ただ、民意を問うた結果が「独立」ということになれば、国際社会もはやそれを黙視できない。

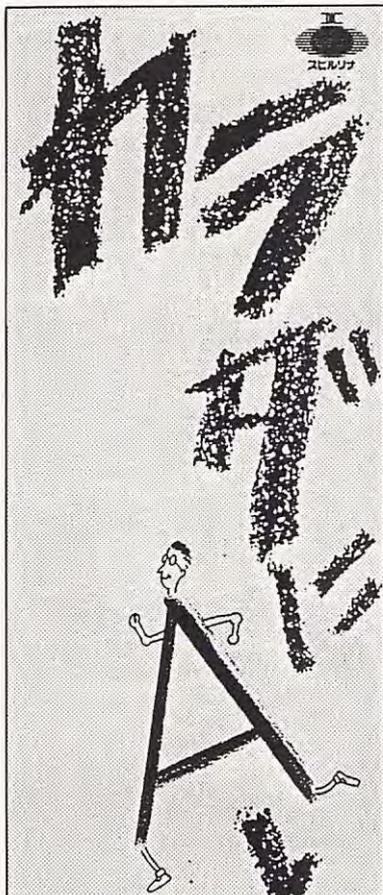
一方、中国としても、台湾を武力解放して独立を阻止することはできないだろう。それは、中国共産党の体制そのものを崩壊させる契機にもなりかねないからだ。即時独立かどうかは別にして、12月の国民代表選挙、92年春までに想定されている憲政改

革に、盛り上がる台湾人としてのアイデンティティをどう政治に反映させるか。与野党双方に突きつけられている重要な課題である。

中国・台湾双方にこのように困難な内政問題がある以上、92年に、例えば第三次国共合作といった急激な展開はなさそうだ。だが、国際交流はこれまで以上に活発になろう。

APEC（アジア太平洋経済協力閣僚会議）に、中国、香港、台湾と「三つ中国」が同時に加盟したように、ガットやIMFなど国際組織への中台加盟問題にも、今後、合理的な解決が図られることは期待できよう。ただ、国連は、「代表権」が絡む問題であり、拒否権を持つ常任理事国である中国が台湾の加盟を承認することは考えにくい。

(談)



効率の良いベータカロチン(ビタミンA)補給に。リナグリーンは、ベータカロチン、良質のたんぱく質、ビタミンB群、ミネラル類、不飽和脂肪酸などを多く含む緑の食用藻スピルリナ100%の栄養補助食品です。ビタミンAをはじめ、総合的な栄養補給にお役立ただけます。緑黄色野菜の不足がちな方にも最適です。



600粒 ¥ 6,000
1,250粒 ¥ 11,500
1,800粒 ¥ 15,000
90包(顆粒) ¥ 8,800



スピルリナ食品
リナグリーン

発売元:三共通商株式会社
〒104 東京都中央区勝どき3-5-5
TEL.03(3531)6261
製造元:大日本インキ化学工業株式会社